



## **GMO リサーチ株式会社**

2022 年 12 月期通期決算説明会

2023 年 2 月 6 日

## イベント概要

---

[企業名]	GMO リサーチ株式会社
[企業 ID]	3695
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 12 月期通期決算説明会
[決算期]	2022 年度 通期
[日程]	2023 年 2 月 6 日
[ページ数]	20
[時間]	17:30 – 17:53 (合計：23 分、登壇：19 分、質疑応答：4 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	2 名 代表取締役社長 細川 慎一 (以下、細川) 取締役 CFO 森 勇憲 (以下、森)

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 登壇

---

**司会**：ただいまより、GMO リサーチ株式会社 2022 年 12 月期決算説明会を開始いたします。本日はお忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。今回の決算説明会においても、皆様の新型コロナウイルスの感染リスク低減のため、会場での開催ではなく Web 上のライブ形式での決算説明会とさせていただきます。

本日の決算説明会には、代表取締役社長、細川慎一、取締役、森勇憲の 2 名が出席しております。これより、代表取締役社長、細川慎一から 2022 年 12 月期決算についてご説明させていただきます、その後、Zoom ウェビナーの挙手機能を利用し、皆様からのご質問をお受けさせていただきます。それでは、代表取締役社長、細川よりご説明させていただきます。細川社長、お願いいたします。

## 目次

1. 結論と要約
2. 決算概要
3. 事業の概況
4. 2023年事業戦略
5. 2023年業績予想

## Appendix

GMO RESEARCH

2

**細川**：GMO リサーチ株式会社代表取締役社長の細川です。本日はお忙しい中、決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

これより、2022 年 12 月期の決算説明を行います。まず、こちらにありますとおりのアジェンダで進めさせていただきます。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 結論と要約 | 決算サマリー

- 売上高及びすべての段階利益について通期過去最高業績
- 17期連続増収、3期連続増益（営業増益・経常増益）

(単位：百万円)	2021 (1-12月)	2022 (1-12月)	増減額	増減率	
売上高	4,086	5,200	+1,114	+27.3%	通期 過去最高
営業利益	352	419	+67	+19.0%	通期 過去最高
経常利益	385	458	+72	+18.9%	通期 過去最高
最終利益	274	356	+82	+30.0%	通期 過去最高

GMO RESEARCH

4

次に結論と要約になります。まず、決算サマリーです。

2022年通期の段階利益は、売上高は対前年度比27%増の52億円。営業利益は対前年比19%増の4億1,900万円。最終利益は対前年度比30%増の3億5,600万円となりました。

全ての段階利益について、通期過去最高業績を達成いたしました。また、売上高について17期連続増収。営業利益、経常利益については3期連続増益となり、継続的な成長トレンドを実現していると思います。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 結論と要約 | 営業利益推移

- 粗利は前年比483百万円増、営業利益は前年比67百万円増
- 2023年への先行投資約70百万円を除いた実態営業利益は約490百万円（3Q決算発表時に示した先行投資額約60百万円より約10百万円増加）



GMO RESEARCH

5

次の営業利益推移に入ります。

営業利益の対前年比の増減要因をグラフ化すると、こちらのようになりますが、対前年比で調査案件の増加により売上高が11億1,400万円増加し、それに伴って原価が6億3,000万円増加しました。結果として、粗利は対前年比で4億8,300万円増加になりました。販管費については、人件費や出張費、広告宣伝費などで4億1,600万円の増加になりまして、その結果、営業利益は対前年度比で6,700万円増となりました。

なお、2023年の成長に向けた先行投資として、第4四半期において一時的な費用を約7,000万円支出しております。実質的な営業利益は、4億9,000万円程度と見ております。第3四半期の決算発表ときには、2023年に向けた先行投資を約6,000万円と説明させていただきましたが、その後、主に採用費が増加したために先行投資は7,000万円に増加いたしました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## 結論と要約 | 通期業績予想に対する着地

- 2022年11月7日に公表した修正業績予想に対し、売上高は予想通り着地、営業利益以下の段階利益は若干下振れして着地
- 下振れの要因は、国内売上の成長率低下及び先行投資増加

(単位：百万円)	2021実績	2022 当初業績予想	2022 修正業績予想	2022 通期実績	対修正予想 増減額	対修正予想 達成率
売上高	4,086	4,600	5,150	5,200	+50	101%
営業利益	352	410	450	419	▲30	93%
経常利益	385	410	520	458	▲61	88%
最終利益	274	290	380	356	▲23	94%

GMO RESEARCH

6

次の通期業績予想に対する着地でございます。

2022年11月7日にリリースさせていただいた修正後の業績予想数値に対し、売上高は予想どおり着地いたしました。しかし、営業利益については若干下振れとなりました。これは、国内売上の成長率の想定よりも多少落ちた部分と、前のスライドでもご説明させていただきましたが、2023年への先行投資が多少増加したためです。

また、経常利益については営業利益の下振れに加え、期末に向けての円高の進行で為替差損が発生し、下振れで着地いたしました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 結論と要約 | 2022年度株主還元計画

業績に連動した配当（配当性向50%）を目標とする配当の基本方針により、2022年最終利益にもとづき、2022年度の配当予想を1株当たり109.14円に修正させていただいております。

	2021年度	2022年度	対前年比
	実績	(予定)	
1株当たり期末配当金（円）	83.97	109.14	+25.17円
配当性向（%）	50.0%	50.0%	±0.0pt
1株当たり当期純利益（円）	168.03	218.39	+50.36円

GMO RESEARCH

7

次に2022年度株主還元計画です。

当期の業績および配当性向50%の還元方針に基づいて、2022年度については、一株当たり配当額を昨年よりも25円17銭多い、109円14銭とさせていただく予定です。

## 決算概要 | 連結損益計算書

(単位：百万円)	2021年 1-12月	2022年 1-12月	前期比
売上高	4,086	5,200	127.3%
売上原価	2,106	2,736	130.0%
売上総利益	1,980	2,463	124.4%
（売上総利益率）	48.5%	47.4%	▲1.1pt
販売費及び一般管理費	1,627	2,043	125.6%
（販管費率）	39.8%	39.3%	▲0.5pt
営業利益	352	419	119.0%
（営業利益率）	8.6%	8.1%	▲0.5pt
経常利益	385	458	118.9%
当期純利益	274	356	130.0%

GMO RESEARCH

9

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



次は決算概要になります。まず、損益計算書に関しては、先ほど結論と要約でご説明させていただいたとおりですので、割愛させていただきます。

## 決算概要 | 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2021年12月末	2022年12月末	前期末比
流動資産	2,358	2,595	110.1%
現金及び現金同等物	1,264	1,167	92.3%
固定資産	441	476	107.8%
資産合計	2,799	3,072	109.7%
流動負債	1,107	1,148	103.7%
固定負債	15	14	94.6%
負債合計	1,123	1,163	103.6%
純資産	1,676	1,908	113.8%
(純資産比率)	59.9%	62.1%	+2.2Pt

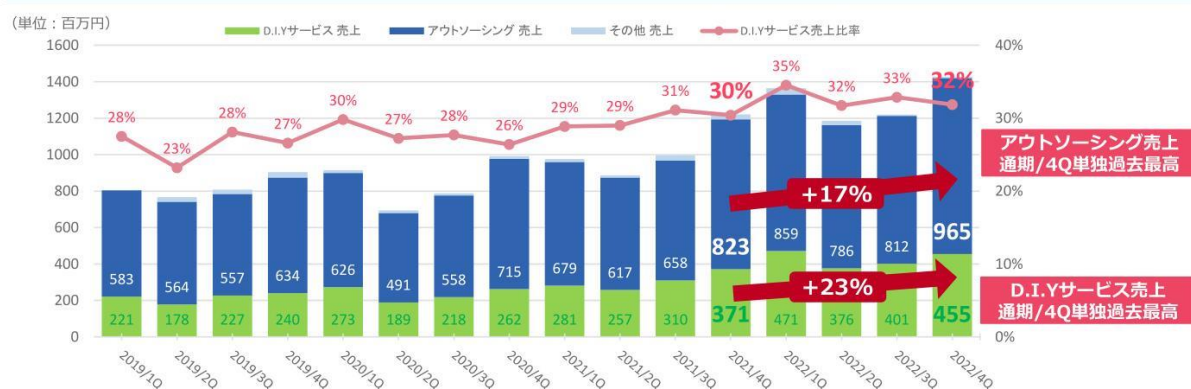
GMO RESEARCH

10

次に連結貸借対照表になります。前期末からのバランスシートの構造に大きな変化はなく、安全性の高い財務状況を保つことができていると思っております。

## 事業の概況 | サービス別売上高推移

- アウトソーシング対前4Q+17%(+142百万円)、通期/4Q単独期間最高売上
- D.I.Yサービス対前4Q+23%(+83百万円)、通期/4Q単独期間最高売上
- D.I.Yサービスの売上高構成比は32%に（前4Q比+1.5pt増）



GMO RESEARCH

12

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



次に事業の概況に移ります。まず、サービス別売上高推移になります。

アウトソーシング売上は、前4Q比でプラスの17%になっておりまして、D.I.Yサービス売上は、前4Q比でプラス23%になっておりまして、両サービスとも通期および第4四半期単独期間として、過去最高売上を記録しました。

全売上高に占めるD.I.Yサービス売上の比率は32%となって、前4Qに加えて1.5ポイントアップしております。

## 事業の概況 | 国内・海外売上高推移

- 前4Q比で、国内売上+8%(+71百万円)、海外売上+43%(+135百万円)
- 国内売上・海外売上ともに通期/4Q単独期間最高売上
- 海外売上高は為替円安影響により、通期で対前年18%程度上振れ



GMO RESEARCH

13

次に、国内・海外売上高推移になります。

国内売上は、前4Q比でプラス8%、海外売上は前4Q比でプラス43%となりました。国内・海外ともに通期および第4四半期単独期間として、過去最高売上を記録しております。また、海外売上比率は32%となり、前4Qと比較して5.7ポイントアップしております。

なお、為替の円安影響により、海外売上高は通期18%の上振れ影響が発生しております。

あと、国内売上の成長率鈍化（鈍化といっても成長はしており、3Qよりもという意味です。）に関しては、営業の採用遅れによって、特定のセグメントに営業人員を充てられず、売上を伸ばせなかった経緯がございます。ですので、先ほども申しましたように、2022年第4四半期において採用強化で多少、販管費が増えておりますが、これが2023年にきちんと数字で戻ってくると確信しております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



# 直近の主なリリース

日付	タイトル	URL
2021/11/18	2021年11月18日オンラインインタビューサービス「MO Lite インタビュー byGMO」でさらにお得な定額チケット制「バウチャープラン」を本日より提供開始	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20211117437797_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20211117437797_P01_.pdf</a>
2021/11/29	GMOリサーチと東芝データ、購入実績を起点とした調査データの活用に向けた協業を開始	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20211126442390_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20211126442390_P01_.pdf</a>
2021/12/20	米国法人設立に関するお知らせ	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20211217454928_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20211217454928_P01_.pdf</a>
2022/4/7	「Tableau」によるデータ可視化サービスの提供を開始 直感的なビジュアルでスピーディーなデータ分析を実現	<a href="https://gmo-research.jp/pressroom/press-release/press-release-20220407">https://gmo-research.jp/pressroom/press-release/press-release-20220407</a>
2022/6/20	GMOリサーチが6番目のグローバル拠点となる米国法人「GMO-Z.com Research USA, Inc.」の営業を開始～イノベーションが加速する米国で企業と社会をつなぐプラットフォームの普及を推進～	<a href="https://gmo-research.jp/pressroom/press-release/press-release-20220620">https://gmo-research.jp/pressroom/press-release/press-release-20220620</a>
2022/8/23	連結子会社の商号変更に関するお知らせ（シンガポール法人）	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20220822522733_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20220822522733_P01_.pdf</a>
2022/8/23	連結子会社の商号変更に関するお知らせ（マレーシア法人）	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20220822522734_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20220822522734_P01_.pdf</a>
2022/9/15	発注からアンケート完了までをオンライン上で完結 1問1回答10円からの完全DIY型アンケート調査ツール「GMO Ask(アスク)」提供開始	<a href="https://gmo-research.jp/pressroom/press-release/press-release-20220915">https://gmo-research.jp/pressroom/press-release/press-release-20220915</a>
2022/10/25	アンケートパネルサイト「Z.com Research」をシンガポールにおいて新たにオープン～東南アジアをリードするシンガポールの消費者向け調査を拡大～	<a href="https://gmo-research.jp/pressroom/press-release/press-release-20221025">https://gmo-research.jp/pressroom/press-release/press-release-20221025</a>
2022/11/7	通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20221104556835_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20221104556835_P01_.pdf</a>
2022/11/8	監査役の逝去及び新任に関するお知らせ	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20221107558129_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20221107558129_P01_.pdf</a>
2022/11/25	海外旅行に関する意識調査をアジア10カ国・地域で実施～行きたい国1位は日本、今後の経済効果に期待～	<a href="https://gmo-research.jp/pressroom/survey/voluntary-survey-20221125">https://gmo-research.jp/pressroom/survey/voluntary-survey-20221125</a>
2022/12/12	一時監査役選任の申し立てに関するお知らせ（一時監査役候補者決定）	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20221211577112_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20221211577112_P01_.pdf</a>
2023/1/16	本部長職・部長職の異動に関するお知らせ	<a href="https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20230116589822_P01_.pdf">https://gmo-research.jp/upload_file/tdnrelease/3695_20230116589822_P01_.pdf</a>
2023/1/26	海外旅行に関する意識調査＜第2弾＞を欧米・オセアニアで実施～APACにおける海外旅行の意向と結果に大きな差～	<a href="https://gmo-research.jp/pressroom/survey/voluntary-survey-20230126">https://gmo-research.jp/pressroom/survey/voluntary-survey-20230126</a>

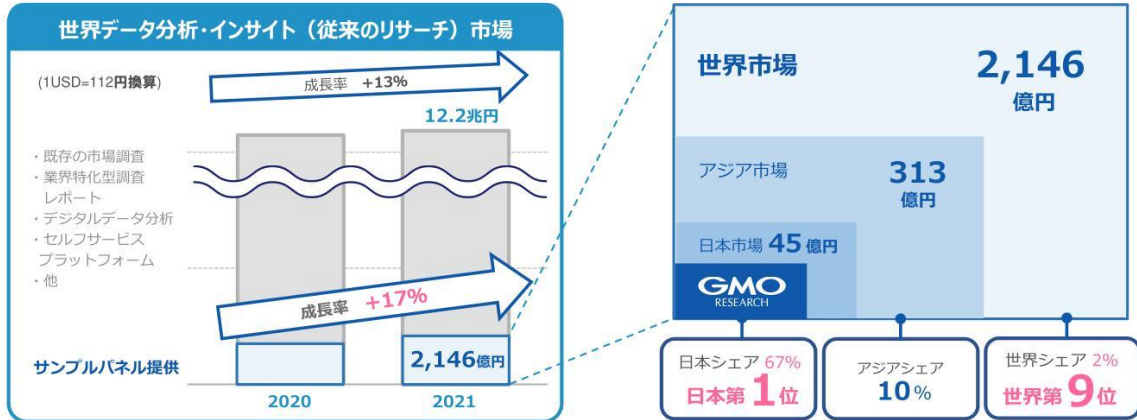
GMO RESEARCH

14

次は主なりリリースになります。こちらは、見ていただければ分かる通りです。

## 2023年事業戦略 | 世界リサーチ市場

- 世界リサーチ市場において、**成長率17%**のサンプルパネル提供市場に注力
- 同市場におけるシェアは、**日本で67%(1位)**、**アジアで10%**、**世界で2%(9位)**を獲得



GMO RESEARCH

16

次に23年度事業戦略になります。まず、世界のリサーチ市場についてです。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

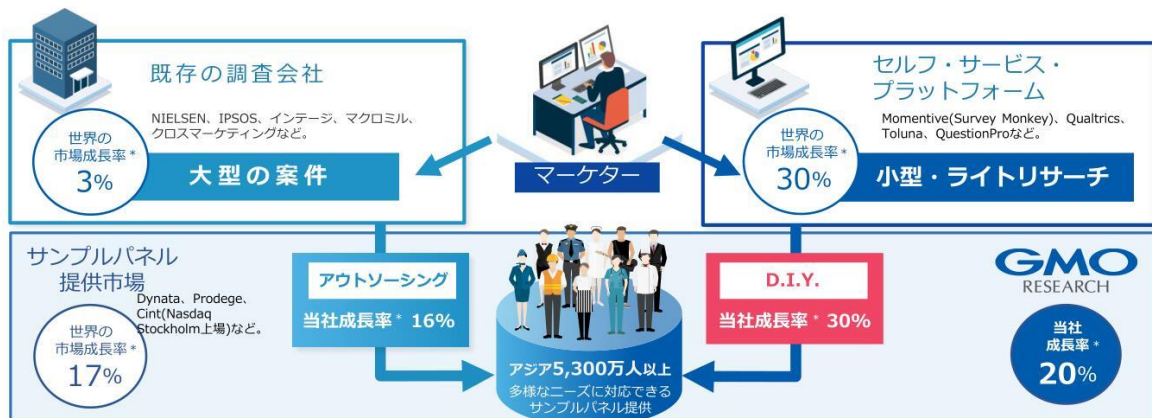


世界のリサーチ業界は約 12 兆円でございますが、その中でわれわれが属するサンプルパネル提供市場は、17%という高い成長率を続けております。当社はこの市場に注力しておりますが、このサンプルパネル提供市場は全世界で 2,146 億円の市場規模があります。

その中で当社、世界第 9 位のシェアを獲得しております。また、アジア市場は 313 億円の市場規模でありますので、当社のシェアはアジアで 10%ということになっております。日本市場に関しては 45 億円程度の市場規模があるというレポートが出てますので、当社のシェアは約 67%で国内シェアナンバーワンを獲得していると言えるかと思えます。当社は日本における優位性をベースとして、アジア、さらには欧米のより大きな市場で事業拡大の機会が存在すると思っております。

## 2023年事業戦略 | サンプルパネル市場で起きていること

- サンプルパネルは、規模拡大とニーズ多様化への対応が進捗
- 調査会社からのオンラインリサーチ案件の受託は今後も継続
- 小型・ライトリサーチ需要増で手軽なセルフ・サービス・プラットフォーム活用が拡大



\*成長率は、2020年と2021年の市場規模および当社売上比較により算出しています。  
出展：ESOMAR, Evolution of the Data, Analytics and Insights Industry, A forecast into 2024, 当社有価証券報告書

GMO RESEARCH

17

次にサンプルパネル市場で起きていることとしまして、サンプルパネル提供市場が継続して成長していく要因について、説明させていただきます。

まず、サンプルパネル提供市場においては、サンプルパネルの規模拡大とニーズ多様化への対応が進んでおります。そうすると、既存の調査会社様からは、より大型の案件をご発注いただけることも含め、オンラインリサーチ案件の当社におけるアウトソーシング売上の受託が、今後も継続的に増加していくと思われまます。

一方、商品ライフサイクルの早期化、小型・ライトリサーチ等におけるセルフ・サービス・プラットフォームの活用が市場の中で急激に拡大しております。お客様である事業会社様には、他社や見

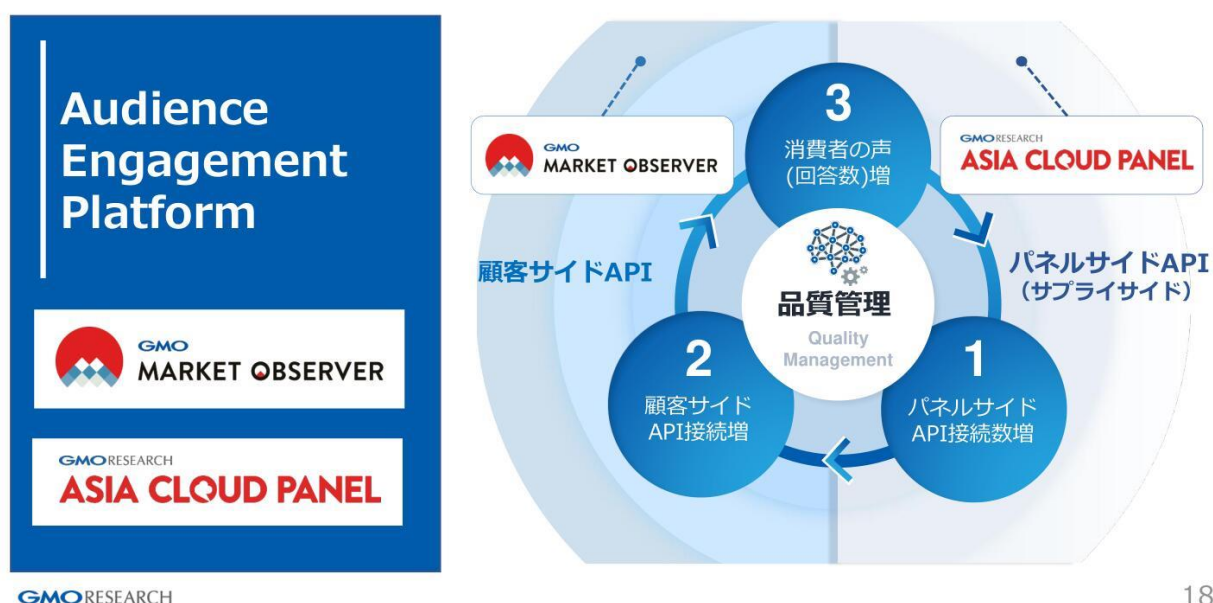
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

込み顧客、一般消費者に対する調査をスピーディーかつお手軽に行いたいというニーズがありますので、サンプルパネルと繋がる D.I.Y 型で、当社の売上ができておりますので、こちらのプラットフォームへの需要の拡大が見込まれております。

なお、当社は 2020 年から 21 年にかけて D.I.Y 型において 30%成長し、アウトソーシングの 16%と合わせて全体で 20%の成長をしております。ですので、世界の成長市場よりも速いペースで成長しているのが確認できるかと思えます。

## 2023年事業戦略 | Audience Engagement Platform



GMO RESEARCH

18

次に Audience Engagement Platform の各 KPI の説明に移りたいと思います。

当社はサンプル提供会社のプラットフォームとして、Audience Engagement Platform としてサービスを提供しているのですが、具体的にはここにある三つの一つ目、パネルサイドの API 接続数が増えていくと、当社でいう、販売する商品が増えていくこととなりますので、商品が強化されています。二つ目に、その強化された商品ができてくると、お客様がわれわれのところに API 等で繋がっていくので、それでさらに安定的な売上の拡大が見込まれます。

ここのお客様が増えてくると、次、3つ目の消費者のアンケートの本数が増えてきますので、そうすると、結果、消費者の方も回答する機会が増えてくるという構造になります。回答する機会が増えてくると、次はまた 1 に戻りまして、サンプルの、会員を持たれている会社さんが、このプラットフォームにジョインしたいということで、またパネルが拡大していくという、いい循環が出てくるわけなんです、これを高いレベルでコントロールするために、当社では AI やロボットを活用

### サポート

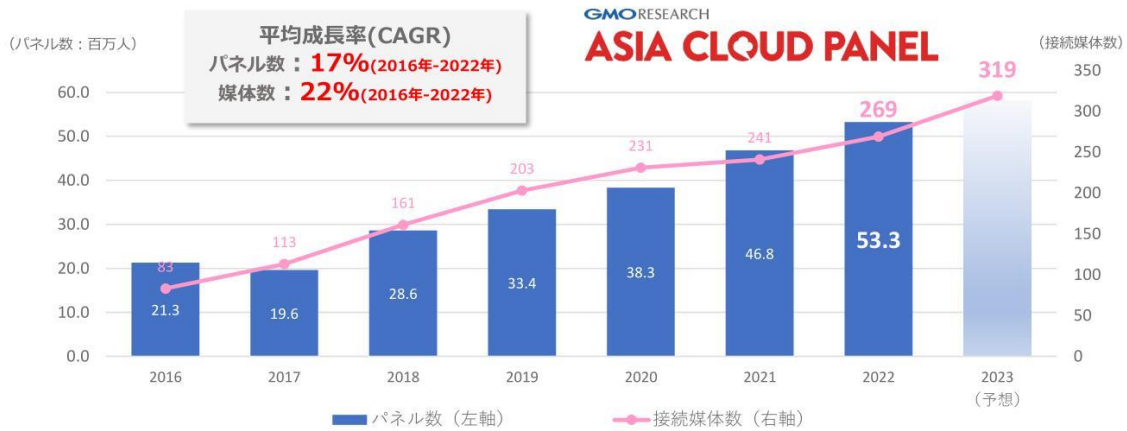
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



して品質管理を行っているというのが、当社のプラットフォームの構造です。ですので、1、2、3のKPIを見ることで、当社が中長期的に継続して成長していくのが確認できるかと思えます。

## 2023年事業戦略 | ①パネルサイドAPI接続数

- 競争力の源泉であるアジアクラウドパネルは、アジア16の国と地域で5,327万人超となり、API接続媒体数は269へ増加しています。



GMO RESEARCH

19

まず1つ目のパネルサイド API 接続の伸長がこのように行われておりまして、21年の241件から28件増加し、22年末で269件となりました。

あと、ASIA CLOUD PANELの数としては、アジア16カ国の国と地域において5,327万人まで増加してきております。23年における目標は、接続媒体数で約319媒体。ASIA CLOUD PANELの数としては5,800万というのを目標に掲げて進めております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 2023年事業戦略 | ②顧客サイドAPI接続数

- アジアクラウドパネルへ接続している顧客数(\*1)及びD.I.Yサービス売上高は順調に増加しております。

(\*1) アジアクラウドパネルへAPI接続している顧客及び当社Market Observerを利用する顧客



GMO RESEARCH

20

次に2つめの顧客サイドAPI接続数ですが、2022年末には21年の80件から37件増加し、117件という成長を遂げております。

その結果、青い棒グラフで示されているD.I.Yサービス売上高も順調に成長しております。D.I.Yサービス売上は、過去の平均成長率が27%とかなり高い成長率となっておりますが、これは後ほど説明しますが、D.I.Yサービスのストック性、すなわち高い顧客継続率や1社当たりの売上高の伸びによるものでございます。2023年においても、API接続数の増加とそれに伴うD.I.Yサービス売上の20%以上の成長を見込んでおります。

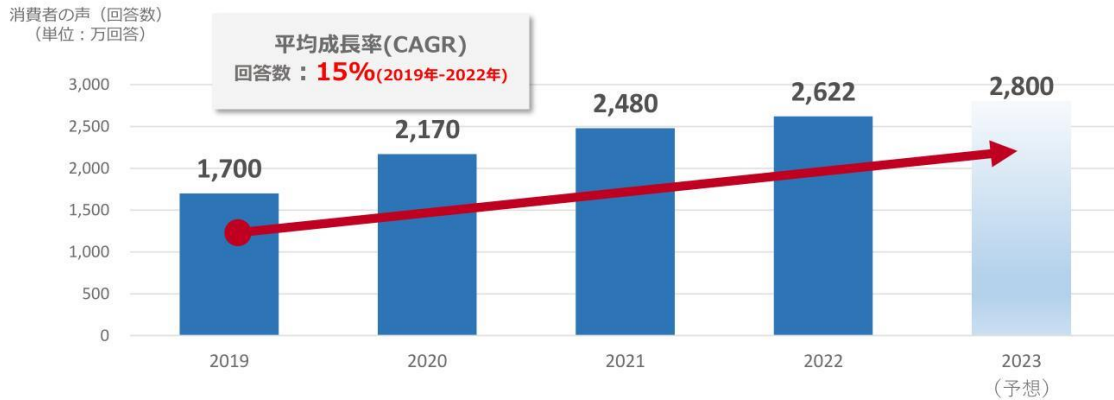
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 2023年事業戦略 | ③消費者の声（回答数）

- 2022年の消費者の声の数は、案件構成の変化、すなわち希少価値の高い消費者の声を集める案件の増加により、回答数の伸びが抑えられた一方で、販売単価は上昇し、売上高の順調な成長につながりました。2023年は2,800万回答を想定しております。



GMO RESEARCH

21

次に3つ目の消費者の声であります。これは回答数です。

世界の企業が受けた消費者の声は、21年で2,480万件でしたが22年では2,622万回答まで増加しました。22年は希少価値の高い消費者の声が集まる案件が増加したために、届けられた消費者の声の数の増加は抑えられたのですが、販売単価が上昇し、その結果、売上高は順調に成長しております。23年の消費者の声は2,800万回を想定して進めております。

## 2023年事業戦略 | D.I.Yサービス売上のストック性

- D.I.Yサービスを利用する顧客の継続率は高く、1社あたり売上高も高水準で推移します。

	D.I.Yサービス	アウトソーシングサービス
顧客継続率*1	94%	50%
1社あたり平均売上高*2	1,417万円	551万円

\*1：顧客が次年度にレポート発注する割合の平均値（2019年以降）

\*2：1社あたり年間売上高の平均値（2019年以降）

GMO RESEARCH

22

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



次に D.I.Y サービス売上のストック性に触れさせていただきます。

当社は従来から、お客様が自らアンケート作成から集計まで行う D.I.Y サービスに力を入れてまいりました。先のスライドで示させていただいたとおり、D.I.Y サービス売上高は順調に成長してきております。この D.I.Y サービスは顧客継続率、すなわちお客様が次年度にリピートで 1 件でも案件を発注する割合が 94%と非常に高く、かなりストック性の高い売上となっております。1 社当たりの平均売上高も、1,400 万円であり、アウトソーシングサービスに比べて顧客当たりの売上高が年々増加する傾向も見られております。

この D.I.Y サービスが順調に成長することで、当社の岩盤収益が強化され、また利益率も改善する効果が出てまいります。

## 2023年事業戦略 | 業界トップクラスの収益力

- プラットフォーム提供事業は一般的マーケティングリサーチサービス提供会社<sup>(※1)</sup>とは業態が違い、収益力(一人あたり売上高)が高く、スケールメリットが出やすい業態です。直近3年は年10%の収益力向上を実現しており、今後も継続向上予定です。

### 一人あたり売上高 <sup>(※2)(※3)</sup>



次にありますのが、業界トップクラスの収益力でございます。

こちらは、われわれ一般的にはマーケティングリサーチサービスの提供会社と、社名もそうなっていますんで、そういうふうに思われることが多いんですが、実は、既存の調査会社というセグメントとわれわれの属するサンプルパネル提供会社っていうのは実は違う業態、マーケットを別に示しているのと同じように、そもそも業態のやってることがだいぶ違うところになります。

その前提で、われわれの属するサンプルパネル提供会社は、収益力が高くスケールメリットも出やすいと理解しております。こちらにあるとおり、左にあるような 1 人当たりの売上高といった収益力に大きく違いがあることがご覧いただけると思います。合わせて、右の図にあるように、この当

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



社の3年においても、年率約10%の1人当たりの収益力の増加が実現しておりまして、今後も、こちらは継続していけるものと思っておりますので、構造が違うことを理解いただければと思っております。

## 2023年業績予想 | サマリー

- 成長トレンドが継続し、2023年は18期連続増収、4期連続増益
- 売上高成長率15%、営業利益成長率29%を想定

(単位: 百万円)	2022 実績	2023 予想	増減額	増減率
売上高	5,200	6,000	+799	+15.4%
営業利益	419	540	+120	+28.7%
経常利益	458	525	+66	+14.6%
最終利益	356	375	+18	+5.2%

GMO RESEARCH

25

次に2023年の業績予想になります。

こちらは、業績予想のサマリーとしまして、アウトソーシング売上、D.I.Y サービス売上、両方の成長の継続が見込まれます。合わせて日本国内・海外売り上げともに成長を見込んでおりまして、売上高は60億円、前期比の15%成長とさせていただきます。営業利益においては、5億4,000万円、前期比29%成長。最終利益については3億7,500万円、前期比5%成長とさせていただきます。

なお、経常利益以下は円高トレンドを想定した設定としておりますので、こちらの前提が崩れれば、またこの状況、その以下はそれに連動して変わってくるものと想定してご理解いただければと思います。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 2023年業績予想 | 2023年度配当予想

2023年度の配当予想につきましては、業績に連動した配当（配当性向50%）を目標とする配当の基本方針により、2023年度最終利益予想にもとづき、1株当たり117.29円と予想しております。

	2021年度	2022年度	2023年度	対前年比
	実績	(予定)	(予想)	
1株当たり年間配当金(円)	83.97	109.14	114.84	+5.70円
配当性向(%)	50.0%	50.0%	50.0%	±0.0pt
1株当たり当期純利益(円)	168.03	218.39	229.69	+11.30円

GMO RESEARCH

26

最後に 2023 年度の配当予想について、ご説明させていただきます。

2023 年度は引き続き配当性向 50%の株主還元方針を継続し、一株当たり配当額 114 円 84 円を想定させていただきます。決算説明は以上となります。

「想いを、世界に」GMO リサーチ。ありがとうございました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 質疑応答

---

司会 [M]：それではこれより、質疑応答の時間とさせていただきます。ご質問ございませんでしょうか。

それでは細川社長、チャット欄のご確認をお願いいたします。

細川 [A]：ありがとうございます。1件ご質問をいただいております。営業利益以下の営業利益との差の部分にどういった項目が為替以外に入ってるか、という質問をいただいております。

こちらは2022年と2023年を比較したときに、2022年もこれ基本、25ページを見ていただければ分かるかと思うんですが、こちらの22年の営業利益と経常利益の差ですね、サマリーのところ。こちらの差はほとんどが為替の影響と考えております。ですので、2023年もこちらはほとんどが為替の影響でのマイナスを一応見込んではいるので、これ、円高に動く想定ですので、この想定が変わればこれは2022年を参考にいただいて検討いただければと思っております。以上です。回答になりましたでしょうか。

ご質問は以上ですので、よろしいでしょうかね。

司会 [M]：ありがとうございます。ほかにご質問はございませんでしょうか。

それでは、まだお時間はございますが、ご質問がないようですので質疑応答を終了させていただきます。

以上をもちまして、GMOリサーチ株式会社2022年12月期決算説明会を終了させていただきます。本日は、ご視聴いただき、誠にありがとうございました。

細川 [M]：ありがとうございました。

[了]

---

### 脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

